

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 2 年 1 0 月 2 8 日
Date of Application:

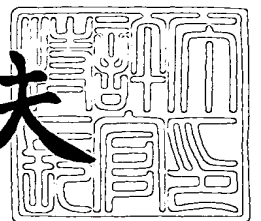
出 願 番 号 特 願 2 0 0 2 - 3 1 2 4 6 9
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 2 - 3 1 2 4 6 9]

出 願 人 セイコーエプソン株式会社
Applicant(s):

2 0 0 3 年 8 月 1 4 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



Atty. Docket No. ITECP003

出証番号 出証特 2 0 0 3 - 3 0 6 6 3 0 2

【書類名】 特許願

【整理番号】 PNSEA140

【提出日】 平成14年10月28日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 17/60

【発明者】

【住所又は居所】 長野県松本市芳川村井町 1 0 5 9 番地 エプソンダイレクト株式会社内

【氏名】 大島 康弘

【発明者】

【住所又は居所】 長野県松本市芳川村井町 1 0 5 9 番地 エプソンダイレクト株式会社内

【氏名】 関沢 隆夫

【発明者】

【住所又は居所】 長野県松本市芳川村井町 1 0 5 9 番地 エプソンダイレクト株式会社内

【氏名】 洪沢 泰夫

【発明者】

【住所又は居所】 長野県松本市芳川村井町 1 0 5 9 番地 エプソンダイレクト株式会社内

【氏名】 相渡 良潔

【特許出願人】

【識別番号】 000002369

【氏名又は名称】 セイコーエプソン株式会社

【代理人】

【識別番号】 110000017

【氏名又は名称】 特許業務法人アイテック国際特許事務所

【代表者】 伊神 広行

【電話番号】 052-218-3226

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 129482

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0105216

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 商品販売システム、その方法及びそのプログラム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ユーザコンピュータと通信可能でありユーザが商品を購入する際に利用される商品販売システムであって、

前記ユーザコンピュータから商品の購入要求を受信したとき、前記商品の商品価格を決定する商品価格決定手段と、

前記ユーザコンピュータから中古品の下取要求と前記中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、前記中古品の下取時の見積価格を前記見積必要情報に基づいて決定する見積価格決定手段と、

前記見積価格に応じて前記商品価格の値引額を決定する値引額決定手段と、
前記値引額を前記商品価格から差し引いた差額を算出する差額算出手段と、
前記差額を支払金額として前記ユーザコンピュータへ送信する支払金額送信手段と

を備えた商品販売システム。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の商品販売システムであって、
前記値引額決定手段は、前記値引額を予め定められた最低保証額以上に決定する手段である

商品販売システム。

【請求項 3】 請求項 1 又は 2 に記載の商品販売システムであって、
前記見積価格決定手段は、前記中古品の下取要求と前記中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、前記中古品の仮見積価格を前記見積必要情報に基づいて決定し該仮見積価格と予め定められた判定基準値とを比較し該比較結果に基づいて前記見積価格を幅を持った金額に決定するか幅を持たない金額に決定し、

前記値引額決定手段は、前記見積価格が幅を持った金額のときには前記値引額を前記幅を持った金額の最低値に応じて決定し、前記見積価格が幅を持たない金額のときには前記値引額を前記幅を持たない金額に応じて決定する

商品販売システム。

【請求項 4】 請求項 3 に記載の商品販売システムであって、
前記判定基準値は、前記中古品の下取価格を確定するために前記中古品の査定を必要とするか否かを判定するための値である
商品販売システム。

【請求項 5】 請求項 3 又は 4 に記載の商品販売システムであって、
前記支払金額送信手段は、前記値引額決定手段によって前記値引額が前記幅を持った金額の最低値に決定されたとき、後日前記中古品を査定したあと確定する下取価格が前記最低値を越えていたときには該越えた分を前記ユーザに渡す旨を前記支払金額と共に前記ユーザコンピュータに送信する
商品販売システム。

【請求項 6】 請求項 3 ～ 5 のいずれかに記載の商品販売システムであって、
前記見積価格決定手段は、前記判定基準値と前記仮見積価格との比較結果に基づいて前記見積価格を幅を持たない金額に決定するときには、前記仮見積価格の多寡に応じて前記見積価格を前記仮見積価格に応じた幅を持たない金額とするか前記仮見積価格にかかわらず予め定められた一定額とする
商品販売システム。

【請求項 7】 請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載の商品販売システムであって、
前記値引額決定手段は、前記見積価格決定手段によって複数の中古品の見積価格が決定されたときには各見積価格の総額又は各値引額の総額に応じて前記商品価格の値引額を決定する
商品販売システム。

【請求項 8】 請求項 1 ～ 7 のいずれかに記載の商品販売システムであって、
前記差額算出手段によって算出された前記差額が予め定められた所定金額を下回らないように調整する調整手段
を備えた商品販売システム。

【請求項 9】 請求項 8 に記載の商品販売システムであって、

前記調整手段は、前記支払金額送信手段に代わって前記中古品の下取要求をそのまま受諾できない旨を前記ユーザコンピュータに送信する送信手段である商品販売システム。

【請求項 1 0】 ユーザが商品を購入する際に利用される商品販売方法であって、

(a) サーバコンピュータが、ユーザコンピュータから商品の購入要求を受信したとき前記商品の商品価格を決定するステップと、

(b) 前記サーバコンピュータが、前記ユーザコンピュータから中古品の下取要求と前記中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、前記中古品の下取時の見積価格を前記見積必要情報に基づいて決定するステップと、

(c) 前記サーバコンピュータが、前記見積価格に応じて前記商品価格の値引額を決定するステップと、

(d) 前記サーバコンピュータが、前記商品価格から前記値引額を差し引いた差額を算出するステップと、

(e) 前記サーバコンピュータが、前記差額を支払金額として前記ユーザコンピュータへ送信するステップと

を含む商品販売方法。

【請求項 1 1】 請求項 1 0 に記載の商品販売方法をサーバコンピュータに実行させるためのプログラム。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ユーザコンピュータと通信可能でありユーザが商品を購入する際に利用される商品販売システム、その方法及びそのプログラムに関する。

【0 0 0 2】

【従来技術】

最近、ユーザから中古品を下取る際の見積価格をユーザに提示するシステムが提案されている。例えば、非特許文献 1 には、新たに製品を購入するユーザを対象としたコンピュータ下取サービスが開示されており、ここでは、ユーザが情報

入力画面にて中古コンピュータのCPU、メモリ、HDDなどの仕様に関する情報を入力したあと見積結果を要求すると、サーバ側からその中古コンピュータの下取見積金額が提示される。

【0003】

【非特許文献1】

“デルPC買取りサービス”、[online]、デルコンピュータ株式会社、[平成14年9月1日検索]、インターネット<URL:http://www.dell.com/jp/jp/dhs/topics/nnsegtopic_kaitori.htm>

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上述したコンピュータ下取サービスではユーザが新たに製品を購入するサイトとシステム側が中古品の下取を行うサイトとの間で情報交換するようにシステムが構築されていないため、ユーザからすれば、製品の購入価格を支払う手続と中古品の下取価格を受け取る手続を別々に行わざるを得ず、十分なユーザフレンドリを有しているとは言えなかった。

【0005】

本発明は、このような課題に鑑みなされたものであり、ユーザフレンドリに商品の販売と同時に中古品の下取を行う商品販売システム、その方法及びそのプログラムを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段及びその作用・効果】

上述の目的を達成するため、本発明は以下の手段を採用した。

【0007】

本発明の第1は、ユーザコンピュータと通信可能でありユーザが商品を購入する際に利用される商品販売システムであって、

前記ユーザコンピュータから商品の購入要求を受信したとき、前記商品の商品価格を決定する商品価格決定手段と、

前記ユーザコンピュータから中古品の下取要求と前記中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、前記中古品の下取時の見積価格を前記見積必要情

報に基づいて決定する見積価格決定手段と、

前記見積価格に応じて前記商品価格の値引額を決定する値引額決定手段と、

前記値引額を前記商品価格から差し引いた差額を算出する差額算出手段と、

前記差額を支払金額として前記ユーザコンピュータへ送信する支払金額送信手段と

を備えたものである。

【0008】

この商品販売システムでは、ユーザコンピュータから商品の購入要求を受信したときその商品価格を決定し、また、ユーザコンピュータから中古品の下取要求と中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、その中古品の下取時の見積価格を見積必要情報に基づいて決定する。そして、見積価格に応じて商品価格の値引額を決定し、その値引額を商品価格から差し引いた差額を算出し、その差額を支払金額としてユーザコンピュータへ送信する。このように、商品価格から値引額を自動値引してその差額を支払金額としてユーザに送信するため、ユーザとしては商品の購入価格を支払う手続と中古品の下取価格を受け取る手続を別々に行う場合に比べて手続が簡素化される。つまり、商品の販売と中古品の下取とをユーザフレンドリに行うことができる。

【0009】

本明細書で、「中古品の下取」とは、ユーザが新たに商品を購入するのを条件にシステム側が中古品を引き取ることをいう。また、「中古品」とは、新品でない品物をいい、例えば新品を何度か使用した品物や新品を使用せず月日が経過した品物などをいう。

【0010】

本発明の商品販売システムにおいて、前記値引額決定手段は、前記値引額を予め定められた最低保証額以上に決定する手段であってもよい。こうすれば、ユーザとしては中古品を少なくとも最低保証額で引き取ってもらえるというメリットがある。

【0011】

本発明の商品販売システムにおいて、前記見積価格決定手段は、前記中古品の

下取要求と前記中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、前記中古品の仮見積価格を前記見積必要情報に基づいて決定し該仮見積価格と予め定められた判定基準値とを比較し該比較結果に基づいて前記見積価格を幅を持った金額に決定するか幅を持たない金額に決定し、前記値引額決定手段は、前記見積価格が幅を持った金額のときには前記値引額を前記幅を持った金額の最低値に応じて決定し、前記見積価格が幅を持たない金額のときには前記値引額を前記幅を持たない金額に応じて決定してもよい。こうすれば、見積価格が幅を持った金額（例えば最低×××円～上限〇〇〇円）のときであっても値引額を最低値として自動値引が行われるため、ユーザとしては支払金額が少なくてすむ。

【 0 0 1 2 】

このとき、前記判定基準値は、前記中古品の下取価格を確定するために前記中古品の査定を必要とするか否かを判定するための値であってもよい。こうすれば、中古品の下取価格を確定するために中古品の査定を必要としないときには査定によって下取価格が変動することはないため幅を持たない金額が見積価格となり、下取価格を確定するために中古品の査定を必要とするときには査定によって下取価格が変動する可能性があるため幅を持った金額が見積価格となり、合理的である。

【 0 0 1 3 】

また、前記支払金額送信手段は、前記値引額決定手段によって前記値引額が前記幅を持った金額の最低値に決定されたとき、後日前記中古品を査定したあと確定する下取価格が前記最低値を越えていたときには該越えた分に応じた額を前記ユーザに渡す旨を前記支払金額と共に前記ユーザコンピュータに送信してもよい。こうすれば、査定によって確定した中古品の下取価格が最低値を超える場合にはその越えた分に応じた額も手当てされるためユーザに不満が残りにくい。

【 0 0 1 4 】

更に、前記見積価格決定手段は、前記判定基準値と前記仮見積価格との比較結果に基づいて前記見積価格を幅を持たない金額に決定するときには、前記仮見積価格の多寡に応じて前記見積価格を前記仮見積価格に応じた幅を持たない金額とするか前記仮見積価格にかかわらず予め定められた一定額としてもよい。こうす

れば、見積価格を幅を持たない金額に決定するとき、仮見積価格つまり中古品の価値が高ければその価値に応じた幅を持たない金額とし、その価値が低ければその価値にかからわず一定額とすることができる。

【0015】

本発明の商品販売システムにおいて、前記値引額決定手段は、前記見積価格決定手段によって複数の中古品の見積価格が決定されたときには各見積価格の総額又は各値引額の総額に応じて前記商品価格の値引額を決定してもよい。こうすれば、商品を購入する際に複数の中古品を下取ってもらうことができるので、ユーザにとっては一つしか中古品を下取ってもらえない場合に比べて値引額が大きくなるというメリットがある。

【0016】

本発明の商品販売システムは、前記差額算出手段によって算出された前記差額が予め定められた所定金額を下回らないように調整する調整手段を備えていても良い。こうすれば、システム側にとっては、ユーザに商品を販売する際にあまりにも低額で商品を提供しなければならないという事態を回避することができる。なお、所定金額はゼロであってもよいしゼロを超える金額（例えば商品価格の $x\%$ ）であってもよい。

【0017】

このとき、前記調整手段は、前記支払金額送信手段に代わって前記中古品の下取要求をそのまま受諾できない旨を前記ユーザコンピュータに送信する送信手段であってもよい。こうすれば、ユーザは中古品の下取要求がそのまま受諾されなかったことを知ることができる。ここで、「中古品の下取要求をそのまま受諾できない旨」としては、例えば値引額が多額になり過ぎたため中古品の下取個数を制限する旨とか、値引額が多額になり過ぎたため複数の中古品のうち幾つかは下取でなく買取（商品の購入を伴わないときの中古品の引取のことであり、買取価格は下取価格よりも低く設定される）になる旨などをいう。

【0018】

本発明の第2は、ユーザが商品を購入する際に利用される商品販売方法であって、

- (a) サーバコンピュータが、ユーザコンピュータから商品の購入要求を受信したとき前記商品の商品価格を決定するステップと、
 - (b) 前記サーバコンピュータが、前記ユーザコンピュータから中古品の下取要求と前記中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、前記中古品の下取時の見積価格を前記見積必要情報に基づいて決定するステップと、
 - (c) 前記サーバコンピュータが、前記見積価格に応じて前記商品価格の値引額を決定するステップと、
 - (d) 前記サーバコンピュータが、前記商品価格から前記値引額を差し引いた差額を算出するステップと、
 - (e) 前記サーバコンピュータが、前記差額を支払金額として前記ユーザコンピュータへ送信するステップと
- を含むものである。

【0019】

この商品販売方法では、ユーザコンピュータから商品の購入要求を受信したときその商品価格を決定し、また、ユーザコンピュータから中古品の下取要求と中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、その中古品の下取時の見積価格を見積必要情報に基づいて決定する。そして、見積価格に応じて商品価格の値引額を決定し、その値引額を商品価格から差し引いた差額を算出し、その差額を支払金額としてユーザコンピュータへ送信する。このように、商品価格から値引額を自動値引してその差額を支払額としてユーザに送信するため、ユーザとしては商品の購入価格を支払う手続と中古品の下取価格を受け取る手続を別々に行う場合に比べて手続が簡素化される。つまり、商品の販売と中古品の下取とをユーザフレンドリに行うことができる。

【0020】

本発明の第3は、上述した商品販売方法の各ステップをサーバコンピュータに実行させるためのプログラムである。このプログラムは、コンピュータが読み取り可能な記録媒体（例えばハードディスク、ROM、FD、CD、DVDなど）に記録されていてもよいし、伝送媒体（インターネットやLANなどの通信網）を介してあるコンピュータから別のコンピュータへ配信されてもよいし、その他

どのような形で授受されてもよい。このプログラムをサーバコンピュータに実行させれば、サーバコンピュータは上述の商品販売方法の各ステップを実行するため、上述の商品販売方法と同様の作用効果が得られる。なお、本発明におけるサーバコンピュータは、1台で各ステップのすべてを実行してもよいし、複数台で各ステップを分担して実行してもよい。

【0021】

【発明の実施の形態】

次に、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。図1は本発明のサーバシステム10の概略構成を表す説明図、図2はデータベースサーバのデータ記憶装置に記憶された各種データベースの説明図である。

【0022】

本実施形態のサーバシステム10は、ウェブサーバ12と、データベースサーバ14とで構成され、それぞれネットワークケーブル18によって通信可能に接続されている。なお、本明細書において「下取」とは、商品の購入を伴って中古品を引き取ることをいう。

【0023】

ウェブサーバ12は、記憶部13に記憶された各種プログラムを実行することにより、ユーザが所有する中古のパーソナルコンピュータを下取る際の下取見積価格を提示する中古品見積サイトを開設するサーバとして機能したり、新品のパーソナルコンピュータの販売を行うショッピングサイトを開設するサーバとして機能したりする。このウェブサーバ12は、インターネット20を介して接続されたユーザコンピュータ40の要求窓口となるサーバであり、ユーザコンピュータ40から受信した要求内容に応じて自ら応答内容を作成してユーザコンピュータ40へ送信したり、ユーザコンピュータ40から受信した見積必要情報をデータベースサーバ14に渡してデータベースサーバ14に下取見積価格を演算させその演算結果を受け取りその演算結果から応答内容を作成してユーザコンピュータ40へ送信したりする機能などを有している。なお、見積必要情報とは、中古のパーソナルコンピュータを構成する構成部品の種類や性能などに関する情報であるが、詳しくは後述する。

【 0 0 2 4 】

データ記憶装置 1 6 は、データベースサーバ 1 4 に接続され、図 2 に示すように、中古パーソナルコンピュータの構成部品の部品名と種類と価格とをそれぞれ対応付けた部品価格テーブルを記憶している。中古パーソナルコンピュータの構成部品につき、部品名としては CPU、メモリ、HDD、FDD、CD-ROM、LANカード、マニュアル、梱包箱などがあり、このうち、CPUはプロセッサ名とクロック周波数によって種類が決められその種類ごとに価格が決められており、メモリやHDDは容量によって種類が決められその種類ごとに価格が決められている。なお、図示しないが、CD-ROMは機能（DVDの読み取り可とか書き込み可など）によって種類が決められその種類ごとに価格が決められ、FDDやLANカードやマニュアルや梱包箱は種類の代わりに有か無に対応して価格が決められている。また、データ記憶装置 1 6 は、図 3 に示すように、販売している商品の商品名と商品価格とを対応付けた商品価格テーブルを記憶している。

【 0 0 2 5 】

データベースサーバ 1 4 は、データ記憶装置 1 6 に接続され、ユーザコンピュータ 4 0 からウェブサーバ 1 2 を経由して受信した中古パーソナルコンピュータの見積必要情報に基づいてデータ記憶装置 1 6 の部品価格テーブル（図 2 参照）を検索し各構成部品の中古価格の総額を下取見積価格の最低値 P_{min} として演算してウェブサーバ 1 2 へ渡す機能や、ウェブサーバ 1 2 から受信した商品価格の照会要求に応じてデータ記憶装置 1 6 の商品価格テーブル（図 3 参照）を検索し該当する商品の価格をウェブサーバ 1 2 へ渡す機能などを有している。

【 0 0 2 6 】

ユーザコンピュータ 4 0 は、個人又は法人が使用する周知の汎用パーソナルコンピュータであり、インストールされたウェブブラウザによりインターネット 2 0 を介してウェブサーバ 1 2 が開設する中古品見積サイトやショッピングサイトにアクセス可能である。また、ユーザコンピュータ 4 0 は、種々の画面情報をディスプレイ 4 2 に表示する。

【 0 0 2 7 】

次に、本実施形態のサーバシステム 10 の動作のうち中古品見積サイトとして機能するときの動作について説明する。図 4 は、ウェブサーバ 12 とデータベースサーバ 14 とユーザコンピュータ 40 の通信の様子を時系列的に表した説明図である。

【0028】

まず、ユーザがユーザコンピュータ 40 のウェブブラウザを立ち上げてウェブサーバ 12 が開設する中古品見積サイトの URL（ユニフォーム・リソース・ロケータ）を入力する。すると、ユーザコンピュータ 40 は、中古品見積サイトのトップページの取得要求をインターネット 20 を介してウェブサーバ 12 へ送信する（ステップ S100）。これを受信したウェブサーバ 12 は、中古品見積サイトのトップページ画面をインターネット 20 を介してユーザコンピュータ 40 へ送信し（ステップ S110）、これを受信したユーザコンピュータ 40 は図示しない中古品見積サイトのトップページ画面をディスプレイ 42 に表示する。

【0029】

次いで、ユーザは、そのトップページ画面に設けられている下取見積要求ボタンをクリックする。すると、ユーザコンピュータ 40 は、下取見積要求をインターネット 20 を介してウェブサーバ 12 へ送信する（ステップ S120）。これを受信したウェブサーバ 12 は、見積必要情報入力画面をインターネット 20 を介してユーザコンピュータ 40 へ送信し（ステップ S130）、これを受信したユーザコンピュータ 40 は、見積必要情報入力画面をディスプレイ 42 に表示する。ここで、見積必要情報とは、パーソナルコンピュータの中古品の下取見積に必要な情報であり、具体的にはパーソナルコンピュータの構成部品に関する情報である。図 5 は見積必要情報入力画面の一例である。ここでは、CPU についてはプロセッサ名とクロック周波数、メモリや HDD については容量、CD-ROM については機能（DVD の読み取り可とか書き込み可など）、FDD や LAN カードやマニュアルや梱包箱についてはその有無を、プルダウンメニューによって選択し入力する。

【0030】

次いで、ユーザは、見積必要情報入力画面の各構成部品に関する情報を入力し

、同画面に設けられた「OK」ボタン（図5参照）をクリックする。すると、ユーザコンピュータ40は、見積必要情報をインターネット20を介してウェブサーバ12へ送信する（ステップS140）。これを受信したウェブサーバ12は、データベースサーバ14に対して見積必要情報と共に下取見積価格の要求信号を送信する（ステップS150）。すると、これを受信したデータベースサーバ14は、見積必要情報に基づいてデータ記憶装置16に記憶された部品価格テーブル（図2参照）を参照して下取見積価格の最低値 P_{min} を算出する。具体的には、CPUのプロセッサ名とクロック周波数に対応付けられた価格、メモリの容量に対応付けられた価格、HDDの容量に対応付けられた価格などを図2に例示した部品価格テーブルから読み出し、数1式に示すように、これらの部品価格の総額を下取見積価格の最低値 P_{min} として算出する。

【0031】

【数1】

$$P_{min} = \Sigma(\text{部品価格})$$

【0032】

このようにして下取見積価格の最低値 P_{min} を算出したあと、データベースサーバ14は、その下取見積価格の最低値 P_{min} をウェブサーバ12へ送信する（ステップS160）。すると、これを受信したウェブサーバ12は、図6に示す見積画面作成ルーチンを実行する。即ち、ウェブサーバ12は、まず、データベースサーバ14から受け取った下取見積価格の最低値 P_{min} に基づいて、下取見積価格の最高値 P_{max} を算出する（ステップS500）。最高値 P_{max} の算出式の一例を数2式に示す。

【0033】

【数2】

$$P_{max} = P_{min} \times k$$

（但し、 k は1を超える定数）

【0034】

続いて、下取見積価格の最低値 P_{min} を仮見積価格 $P_p r$ とし（ステップS502）、仮見積価格 $P_p r$ が閾値 P_1 を越えているか否かを判定する（ステッ

プS504)。この閾値 P_1 は、仮見積価格 P_{pr} がこの閾値 P_1 を越えるときには中古コンピュータの査定を行った上で下取価格を決定しこの閾値 P_1 以下のときには中古コンピュータの査定を行わずに下取価格を決定する値、つまり査定要否判定値として設定されている。そして、仮見積価格 P_{pr} が P_1 を越えているときには、下取価格を決定する際に査定を行うことを示すために下取査定フラグ F に値1をセットすると共に下取見積価格 P_{est} として最低値 P_{min} から最高値 P_{max} という幅を持たせた金額をセットする（ステップS506）。この場合、下取価格は中古コンピュータの査定を行ったうえで最低値 P_{min} から最高値 P_{max} までの範囲内に決定されることになる。

【0035】

一方、ステップS504で仮見積価格 P_{pr} が閾値 P_1 以下だったときには、仮見積価格 P_{pr} が閾値 P_2 を越えているか否かを判定する（ステップS508）。この閾値 P_2 は、閾値 P_1 より小さな値であり、仮見積価格 P_{pr} の多寡を判定する多寡判定値として設定されている。そして、仮見積価格 P_{pr} が P_2 を越えているときには、下取価格を決定する際に査定を行わないことを示すために下取査定フラグ F に値0をセットすると共に下取見積価格 P_{est} として仮見積価格 P_{pr} の関数 $f(P_{pr})$ をセットする（ステップS510）。ここでは、関数 $f(P_{pr}) = P_{pr}$ とする。この場合、下取価格は仮見積価格 P_{pr} つまり最低値 P_{min} に確定される。つまり、中古コンピュータを査定せずに下取る際の価格としてこの最低値 P_{min} が確定価格として設定される。この最低値 P_{min} は、データベースサーバ14によって中古コンピュータの構成部品の部品価格の総額として算出されるため、中古コンピュータごとに異なる値となる。

【0036】

一方、ステップS508で仮見積価格 P_{pr} が閾値 P_2 以下だったときには、下取価格を決定する際に査定を行わないことを示すために下取査定フラグ F に値0をセットすると共に下取見積価格 P_{est} として一定金額 C をセットする（ステップS512）。ここでは、一定金額 C を閾値 P_2 と同額とする。この場合、下取価格は一定金額 C に確定される。つまり、中古コンピュータを査定せずに下取る際の価格としてこの一定金額 C が確定価格として設定される。また、この一

定金額Cは中古コンピュータの構成部品によらない一定値である。

【0037】

このようにステップS506、S510、S512のいずれかで下取査定フラグF及び下取見積価格Pestの設定が終了したあと、これらに基づいて見積画面を作成し（ステップS514）、このルーチンを終了する。なお、図7は仮見積価格Pprと査定の有無と下取見積価格Pestとの関係や表す説明図である。この図7には後述する値引額Dとの関係も示した。

【0038】

図4に戻り、ウェブサーバ12は、ステップS514で作成した見積画面と共に、下取見積価格Pestとユーザコンピュータ40から受け取った見積必要情報とを含むクッキー情報をユーザコンピュータ40へ送信する（ステップS170）。すると、これを受信したユーザコンピュータ40はディスプレイ42にその見積画面を表示すると共に、クッキー情報をユーザコンピュータ40内の所定の記憶領域に保存する。

【0039】

ここで、ディスプレイ42に表示される見積画面について幾つかの具体例を挙げて説明する。仮見積価格Pprが閾値P1を越えるときには、図8（a）に示すように、下取見積価格として最低値Pminから最高値Pmaxまでの幅を持った金額を表示し、下取見積価格の定義を説明する説明文（注意事項①参照）や、最終的な下取価格は中古品の査定を行った上で決定される旨の説明文（注意事項②参照）や、下取を希望するときに選択される「下取希望」ボタンと下取を希望しないときに選択される「キャンセル希望」ボタンなどを表示する見積画面を作成する。なお、図8の見積画面には、注意事項として、その他に正常に動作しない中古品は対象外になること（注意事項③参照）や、所有権の移転（注意事項④）についての説明が表示される。

【0040】

仮見積価格Pprが閾値P1以下で閾値P2を越えるときには、図8（b）に示すように、下取見積価格として関数 $f(Ppr)$ （＝最低値Pmin）つまり仮見積価格に応じた幅を持たない金額を表示し、下取見積価格の定義を説明する

説明文（注意事項①参照）や、最終的な下取価格は確定値のとおりであり中古品の査定を行わない旨の説明文（注意事項②参照）のほか、図示しないが図8（a）と同様の「下取希望」ボタンや「キャンセル希望」ボタンや注意事項③、④などを表示する見積画面を作成する。

【0041】

仮見積価格 P_{pr} が閾値 P_2 以下のときには、図8（c）に示すように、下取見積価格として一定金額 C （＝閾値 P_2 ）つまり仮見積価格に依存しない幅を持たない一定金額を表示し、下取見積価格の定義を説明する説明文（注意事項①参照）や、最終的な下取価格は確定値のとおりであり中古品の査定を行わない旨の説明文（注意事項②参照）のほか、図示しないが図8（a）と同様の「下取希望」ボタンや「キャンセル希望」ボタンや注意事項③、④などを表示する見積画面を作成する。

【0042】

さて、図4に戻り、ユーザは、見積画面の注意事項を読んでその内容を認識した上で、下取を希望する場合には「下取希望」ボタンをクリックし、下取を希望しない場合には「キャンセル」ボタンをクリックする。すると、ユーザコンピュータ40は、「下取希望」ボタンがクリックされたときには下取要求を、「キャンセル」ボタンがクリックされたときにはキャンセル要求をインターネット20を介してウェブサーバ12へ送信する（ステップS180）。すると、これを受信したウェブサーバ12は、受信した信号が下取希望だったときには新たに商品を購入することのできるショッピングサイトのトップページ画面をユーザコンピュータ40へ送信し、受信した信号がキャンセル要求だったときには中古品見積サイトのトップページ画面をユーザコンピュータ40へ送信する（ステップS190）。

【0043】

次に、本実施形態のサーバシステム10の動作のうちショッピングサイトとして機能するときの動作について説明する。図9は、ウェブサーバ12とデータベースサーバ14とユーザコンピュータ40の通信の様子を時系列的に表した説明図である。ここでは、ユーザは上述したように既に中古品見積サイトで中古パー

ソナルコンピュータの見積を行い、ステップS180で「下取希望」ボタンをクリックし、ステップS190でショッピングサイトのトップページ画面がユーザコンピュータ40へ送信されたものとして説明する。

【0044】

ユーザは、図示しないショッピングサイトのトップページ画面に設けられているコンピュータ製品群の中から気に入った商品を選び、それをショッピングカートに入れる。ここでは、1台の新品のパーソナルコンピュータがショッピングカートに入れられたとする。この間の通信の様子については説明を省略するが、適宜、ユーザコンピュータ40とウェブサーバ12との間で要求・応答が繰り返される。そして、ユーザが図示しない購入手順ボタンをクリックすると、ユーザコンピュータ40はショッピングカートに入っている商品の購入要求をインターネット20を介してウェブサーバ12へ送信する（ステップS320）。このとき、ユーザコンピュータ40は、ステップS170でウェブサーバ12から取得したクッキー情報を購入要求に添付してウェブサーバ12へ送信する。すると、これを受信したウェブサーバ12は、クッキー情報を記憶部13に保存すると共に、データベースサーバ14に対して購入要求のあった商品の価格の照会を要求する信号を送信する（ステップS330）。商品価格の照会要求を受信したデータベースサーバ14は、データ記憶装置16に記憶された商品価格テーブル（図3参照）からその商品の商品名に対応する商品価格を読み出し、これをウェブサーバ12へ送信する（ステップS340）。

【0045】

すると、これを受信したウェブサーバ12は、図10の支払金額算出ルーチンに示すように、まず記憶部13に保存したクッキー情報に含まれる下取見積価格 P_{est} を読み出し（ステップS700）、その下取見積価格 P_{est} が最低値 P_{min} から最高値 P_{max} という幅を持った金額か、幅を持たない金額 f (P_{pr}) か、幅を持たない金額 C かを判定する（ステップS702）。そして、その下取見積価格 P_{est} が最低値 P_{min} から最高値 P_{max} という幅を持った金額だったときには値引額 D を最低値 P_{min} とし（ステップS704）、下取見積価格 P_{est} が仮見積価格 P_{pr} に応じた幅を持たない金額 f (P_{pr}) だ

ったときには値引額Dをその下取見積価格P e s tつまりf (P p r)とし(ステップS 7 0 6)、下取見積価格P e s tが一定金額Cだったときには値引額Dをその下取見積価格P e s tつまり金額Cとし(ステップS 7 0 8)、ステップS 7 0 4、S 7 0 6又はS 7 0 8のあと商品価格から値引額Dを差し引いた差額を支払金額として算出し(ステップS 7 1 0)、このルーチンを終了する。その後、ウェブサーバ12は、今回購入希望のあった商品名とその商品価格、下取要求のあった中古パーソナルコンピュータとその下取見積価格、及び今回の支払金額を含む確認画面をユーザコンピュータ40へ送信する(ステップS 3 5 0)。

【0046】

このときの確認画面の一例を図11に示す。この確認画面は、下取見積価格P e s tが最低値P m i nから最高値P m a xという幅を持った金額だった場合の例示である。この場合、最終的な下取価格はシステム側に中古コンピュータが到着後査定を行った上で最低値P m i nから最高値P m a xまでの範囲内で決定されるため、最終的な下取価格が最低値P m i nを上回ったときには支払金額における値引額Dが少なかったことになり、ユーザが不利になる。このため、最低値P m i nを上回った分については別途ユーザに返金することとし、ユーザが不利にならないようにしている。この点が確認画面の注意事項②に表示されている。また、図11の下取対象品の欄には、見積必要情報の一部又は全部が表示されており、具体的にはCPUについてはプロセッサ名とクロック周波数、メモリやHDDについては容量といった具合に表示されている。なお、下取見積価格P e s tが幅を持たない金額f (P p r)又はCだった場合には、査定を行うことなく下取価格が確定されるため値引額Dも確定される。したがって、この場合には注意事項①、②が表示されない。

【0047】

さて、ユーザは、確認画面の内容を確認した上で、下取を希望する場合には「OK」ボタンをクリックし、下取を希望しない場合には「キャンセル」ボタンをクリックする。ユーザは既に中古品見積サイトにおいて「下取希望」ボタンをクリックしているため、多くの場合、ここでも「OK」ボタンをクリックする。このため、以下には「OK」ボタンがクリックされた場合について説明する。ユー

ザコンピュータ 40 は、「OK」ボタンがクリックされたときには確認完了信号をインターネット 20 を介してウェブサーバ 12 へ送信する（ステップ S 360）。これを受信したウェブサーバ 12 は、購入必要情報入力画面をインターネット 20 を介してユーザコンピュータ 40 へ送信する（ステップ S 370）。すると、ユーザコンピュータ 40 は、その入力画面をディスプレイ 42 に表示する。このときの購入必要情報入力画面の一例を図 12 に示す。ここで、購入必要情報とは、ユーザの住所、氏名、電話番号やショッピングサイトで購入した商品の配送先住所、配送先電話番号、配送日時や料金の支払方法などの情報である。なお、商品の配送先住所がユーザの住所と一致している場合には、図 12 の画面における「商品の配送先住所＝ユーザの住所？」の欄に設けられた「はい」のラジオボタンをクリックすれば、商品の配送先住所と配送先電話番号の入力は不要となる。ユーザは、この購入必要情報入力画面にて必要な事項を入力したあと、「送信」ボタンをクリックする。すると、ユーザコンピュータ 40 は、入力された情報をウェブサーバ 12 へ送信する（ステップ S 380）。

【0048】

これを受信したウェブサーバ 12 は、続いて、下取必要情報入力画面をユーザコンピュータ 40 に送信する（ステップ S 390）。すると、ユーザコンピュータ 40 は、その入力画面をディスプレイ 42 に表示する。このときの下取必要情報入力画面の一例を図 13 に示す。ここで、下取必要情報とは、中古品のピックアップ先住所、ピックアップ先電話番号、ピックアップ日時、下取価格の送金先などの情報である。なお、中古品のピックアップ先住所が商品の配送先住所かユーザの住所と一致している場合には、図 13 の画面における「中古品のピックアップ先住所＝ユーザの住所？」の欄に設けられた「はい」のラジオボタンか「中古品のピックアップ先住所＝商品の配送先住所？」の欄に設けられた「はい」のラジオボタンをクリックすれば、中古品のピックアップ先住所とピックアップ先電話番号の入力は不要となる。ユーザは、この下取必要情報入力画面にて必要な事項を入力したあと、「送信」ボタンをクリックする。すると、ユーザコンピュータ 40 は、入力された情報をウェブサーバ 12 へ送信する（ステップ S 400）。これを受信したウェブサーバ 12 は、ユーザコンピュータ 40 に謝辞メッセ

ージを送信し（ステップS410）、この商品購入サイトでの処理を終了する。

【0049】

この後、サーバシステム10側では、ユーザから今回の支払金額を受け取ると共にその商品を配送先住所へ配送し、また、ピックアップ先住所にてユーザから下取対象品である中古のパーソナルコンピュータをピックアップし、査定を行う必要がある場合にはシステム側で査定を行い、査定結果に基づいて下取見積価格の最低値 P_{min} から最高値 P_{max} の範囲内で下取価格を確定し、その下取価格が値引額を上回っていたときには上回った分をユーザに送金する。一方、査定を行う必要がない場合には、中古のパーソナルコンピュータをピックアップした時点で作業は終了する。

【0050】

ここで、本実施形態の構成要素と本発明の構成要素との対応関係を明らかにする。本実施形態のウェブサーバ12及びデータベースサーバ14が本発明の商品価格決定手段及び見積価格決定手段に相当し、ウェブサーバ12が値引額決定手段、差額算出手段及び支払金額送信手段に相当する。

【0051】

以上詳述した本実施形態のサーバシステム10では、ユーザコンピュータ40から商品の購入要求を受信したときその商品価格を決定し、また、ユーザコンピュータ40から中古コンピュータの下取要求とその見積に必要な見積必要情報を受信したとき、その中古コンピュータの下取見積価格 P_{est} を見積必要情報に基づいて決定し、下取見積価格 P_{est} に応じて商品価格の値引額 D を決定し、その値引額 D を商品価格から差し引いた差額を算出し、その差額を支払金額としてユーザコンピュータ40へ送信する。このように、商品価格から値引額 D を自動値引してその差額を支払金額としてユーザに送信するため、ユーザとしては商品の購入価格を支払う手続と中古品の下取価格を受け取る手続を別々に行う場合に比べて手続が簡素化される。つまり、商品の販売と中古品の下取とをユーザフレンドリに行うことができる。

【0052】

また、値引額 D は一定金額 C 以上に決定されるため、この一定金額 C が最低保

証額となり、ユーザとしては中古コンピュータを少なくともこの一定金額Cで引き取ってもらえるというメリットがある。

【0053】

更に、中古コンピュータの仮見積価格 P_{pr} が閾値 P_1 を越えるときには中古コンピュータの下取価格を確定するために査定を必要とすると判断し、下取見積価格 P_{est} を幅を持った金額（最低値 P_{min} から最高値 P_{max} ）として査定後にその幅の範囲内で下取価格を確定するが、この場合には値引額 D を最低値 P_{min} として自動値引が行われるため、ユーザとしては支払金額が少なくて済むし、また、査定後の中古コンピュータの下取価格が最低値を超える場合にはその越えた分に応じた額も手当てされるためユーザに不満が残りにくい。

【0054】

更にまた、中古コンピュータの仮見積価格 P_{pr} が閾値 P_1 以下のときには中古コンピュータの下取価格を確定するために査定が不要と判断し、下取見積価格 P_{est} を幅を持たない金額（ $f(P_{pr})$ 又は C ）としこれを下取価格として確定し、この幅を持たない金額に応じて値引額 D を決定するため、合理的である。このとき、仮見積価格 P_{pr} つまり中古コンピュータの価値が高ければその価値に応じた幅を持たない金額 $f(P_{pr})$ を下取見積価格 P_{est} とし、その価値が低ければその価値にかかわらず一定金額 C を下取見積価格 P_{est} とするため、下取価格を確定するために査定が不要な場合に一律に一定金額 C を下取見積価格 P_{est} とするのに比べて、ユーザに不満が残りにくい。

【0055】

なお、本発明は上述した実施形態に何等限定されるものではなく、種々の形態で実施し得ることはいうまでもない。

【0056】

例えば、上述した実施形態において、ユーザコンピュータ 40 から複数の中古品について下取見積要求があったときには、ウェブサーバ 12 はそれらの中古品の各々についてデータベースサーバ 14 に下取見積価格の最低値 P_{min} を求めさせて仮見積価格 P_{pr} とし、図7のテーブルに照らして得られる値引額 D の総額をそのときの値引額としてもよい。換言すれば、図7のテーブルに照らして得

られる下取見積価格 P e s t の総額に応じて値引額を決定してもよい。こうすれば、商品を購入する際に複数の中古品を下取ってもらうことができるので、ユーザにとっては一つしか中古品を下取ってもらえない場合に比べて値引額が大きくなるというメリットがある。

【0057】

また、上述した実施形態において、ウェブサーバ12は、図11の確認画面における支払金額つまり商品価格から値引額を差し引いた差額が予め定められた所定金額を下回らないように調整してもよい。例えば、支払金額が所定金額を下回ったときには、商品購入金額が足りないため又は値引額が多額になりすぎたため下取依頼のあった中古コンピュータを下取することはできない旨のメッセージをユーザコンピュータ40に送信してもよい。あるいは、複数の中古品について下取要求があったときには下取る数を制限することにより支払金額が所定金額を下回らないようにしてもよく、下取できなかった中古品については買取（商品の購入を伴わないときの中古品の引取のことであり、買取価格は下取価格よりも低く設定される）してもよい。

【0058】

更に、上述した実施形態では、サーバシステム10は、中古品見積サイトでユーザコンピュータ40から中古品の下取見積要求に関する情報を受信したあとショッピングサイトでユーザコンピュータ40から商品購入手続に関する情報を受信したときについて説明したが、これとは逆に、ショッピングサイトでユーザコンピュータ40から商品購入手続に関する情報を受信したあと中古品見積サイトでユーザコンピュータ40に中古品の下取見積要求に関する情報の入力要求进行することもある。このときの様子を図14に示す。図14では、まず、ユーザがウェブブラウザにショッピングサイトのURLを入力すると、ユーザコンピュータ40は、ショッピングサイトのトップページの取得要求をインターネット20を介してウェブサーバ12へ送信する（ステップS300）。これを受信したウェブサーバ12は、ショッピングサイトのトップページ画面をユーザコンピュータ40へ送信し（ステップS310）、これを受信したユーザコンピュータ40はショッピングサイトのトップページ画面をディスプレイ42に表示する。そして

、ユーザが購入希望商品をショッピングカートに入れた後図示しない購入手続ボタンをクリックすると、ユーザコンピュータ40はショッピングカートに入っている商品の購入要求（クッキーなし）をインターネット20を介してウェブサーバ12へ送信する（ステップS320）。すると、これを受信したウェブサーバ12は、データベースサーバ14にその商品の商品価格を照会する要求信号を送信し（ステップS330）、その後データベースサーバ14からその商品の商品価格を受信し（ステップS340）、購入必要情報入力画面（図12参照）をインターネット20を介してユーザコンピュータ40へ送信し（ステップS370）、その後、ユーザコンピュータ40から購入必要情報を受信する（ステップS380）。以上がショッピングサイトとしての処理である。続いて、ウェブサーバ12は、中古品見積サイトとしての処理を行うが、ステップS100からステップS180までは上述した実施形態で既に述べたので説明を省略する。但し、ここではステップS170でクッキー情報を添付していない。また、ステップS180ではウェブサーバ12は下取要求を受信するものとする。その後、ウェブサーバ12は、図10に示す支払金額算出ルーチンと同様の処理を行って支払金額を決定し、図11に示す確認画面を作成してユーザコンピュータ40に送信し（ステップS350）、その後、ユーザコンピュータ40から確認完了信号を受信する（ステップS360）。続いて、ウェブサーバ12は、図13に示す下取必要情報入力画面をユーザコンピュータ40に送信し（ステップS390）、その後、ユーザコンピュータ40から下取必要情報を受信し（ステップS400）、謝辞メッセージをユーザコンピュータ40に送信する（ステップS410）。なお、各ステップについては上述した実施形態で既に述べたので詳しい説明は省略する。この図14の手順が採用された場合でも、上述した実施形態と同様の効果が得られる。

【0059】

更にまた、上述した実施形態では、ウェブサーバ12は下取見積価格の最低値 P_{min} ・最高値 P_{max} とユーザコンピュータ40から受け取った見積必要情報とを含むクッキー情報をユーザコンピュータ40に送信したが、これに代えて次のようにしてもよい。即ち、ウェブサーバ12は、その下取見積価格と見積必

要情報とに対応付けて見積 I D を付し、この見積 I D と下取見積価格と見積必要情報とを含む見積画面を作成したあと、その見積画面に対して見積 I D を付してウェブサーバ 12 の記憶部 13 に保存する。また、ショッピングサイトの購入要求時の画面には見積 I D 入力欄が設けられており、ユーザがショッピングサイトに入る前に中古品見積サイトで下取見積価格を得ている場合にはその見積 I D 入力欄に見積 I D を入力したうえで購入要求を行う。すると、ユーザコンピュータ 40 は、商品の購入要求と共に見積 I D をインターネット 20 を介してウェブサーバ 12 へ送信し、これを受信したウェブサーバ 12 は、記憶部 13 内を検索して見積 I D に対応する下取見積価格と見積必要情報を読み出し、確認画面（図 11 参照）を作成する。この場合にも、上述した実施形態と同様の作用効果が得られる。また、ウェブサーバ 12 の記憶部 13 に下取見積価格と見積必要情報とが保存されるため、ウェブサーバ 12 はこれらの情報の管理がしやすくなる。

【0060】

そしてまた、上述した実施形態では、中古のパーソナルコンピュータの各構成部品の価格を部品価格テーブルから読み出しその部品価格の総額を下取見積価格の最低値 P_{min} としたが、この部品価格の総額を下取見積価格の最高値 P_{max} としこの最高値 P_{max} に基づいて最低値 P_{min} を求めてもよい。あるいは、各部品ごとに下取時の価格の最高値と最低値をテーブル化しておき、下取見積価格の最高値 P_{max} は部品価格の最高値の総額とし、下取見積価格の最低値 P_{min} は部品価格の最低値の総額として求めてもよい。また、仮見積価格 P_{pr} として下取見積価格の最低値 P_{min} を採用したが、仮見積価格 P_{pr} として P_{min} 以外の数値（例えば P_{max} ）を採用してもよい。

【0061】

そして更にまた、上述した実施形態では、パーソナルコンピュータの中古品について説明したが、ディスプレイやプリンタやスキャナなどのパーソナルコンピュータの周辺機器の中古品や、コピー機、ファクシミリ装置、シュレッダなどの OA 機器の中古品や、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジなどの一般家電製品の中古品や、自動車、自動二輪車、自転車、ボートなどの乗り物の中古品や、ゴルフクラブ、テニスラケット、スキー板、スノーボードなどのスポーツ品の中古

品や、マンション、一戸建てなどの中古物件など種々の中古品についても本発明を適用してもよい。

【0 0 6 2】

また、上述した実施形態では、サーバシステム 1 0 をウェブサーバ 1 2 とデータベースサーバ 1 4 の 2 つのサーバで構成したが、データベースサーバ 1 4 の機能をウェブサーバ 1 2 に持たせることにより 1 つのサーバで構成してもよいし、3 つ以上のサーバで構成してもよい。あるいは、中古品見積サイトを開設するサーバシステムとショッピングサイトを開設するサーバシステムとを別々に設けて、両サーバシステムを併せて本発明のサーバシステムとしてもよい。

【図面の簡単な説明】

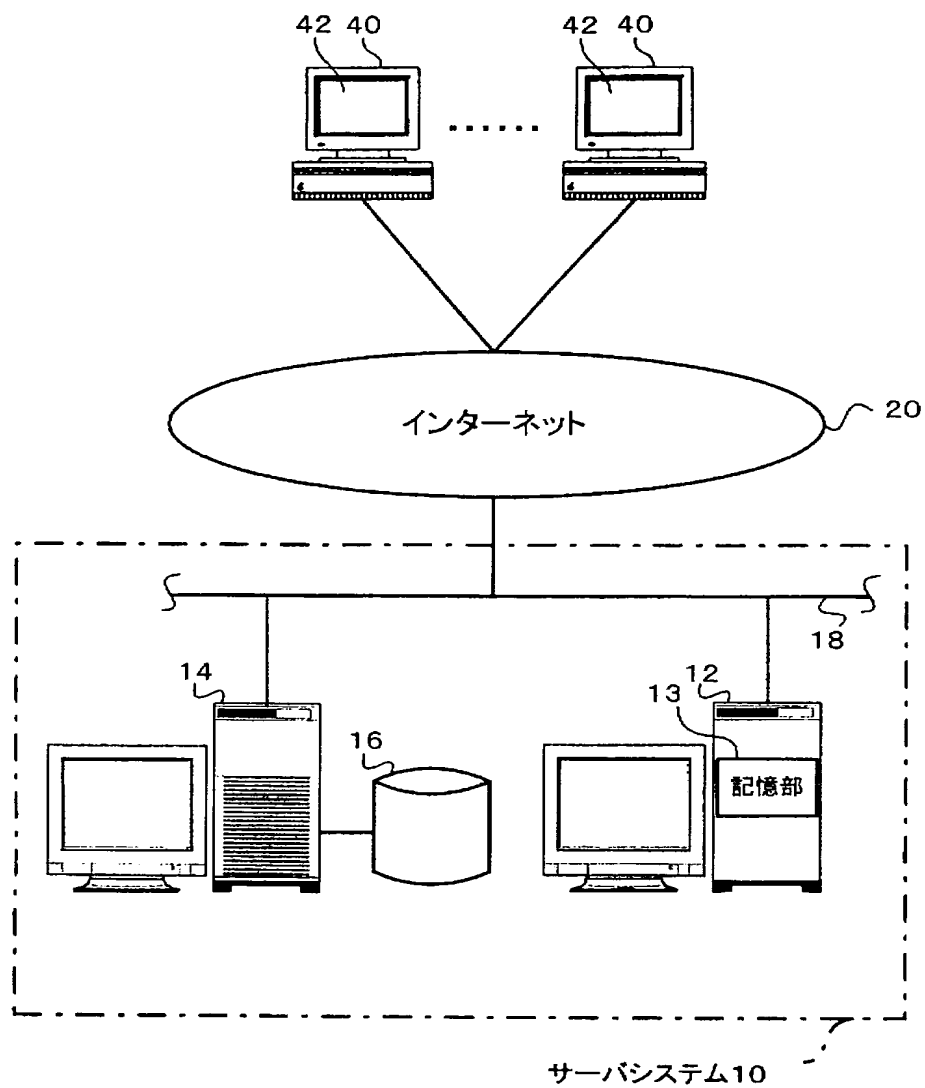
- 【図 1】 本実施形態のサーバシステムの概略構成図である。
- 【図 2】 データ記憶装置に記憶された部品価格テーブルである。
- 【図 3】 データ記憶装置に記憶された商品価格テーブルである。
- 【図 4】 中古品見積サイトでの通信の様子を表した説明図である。
- 【図 5】 見積必要情報入力画面の一例を示す説明図である。
- 【図 6】 見積画面作成ルーチンのフローチャートである。
- 【図 7】 仮見積価格と下取見積価格等との対応テーブルである。
- 【図 8】 見積画面の説明図である。
- 【図 9】 ショッピングサイトでの通信の様子を表した説明図である。
- 【図 1 0】 支払金額算出ルーチンのフローチャートである。
- 【図 1 1】 確認画面の一例を示す説明図である。
- 【図 1 2】 購入必要情報入力画面の一例を示す説明図である。
- 【図 1 3】 下取必要情報入力画面の一例を示す説明図である。
- 【図 1 4】 各サイトでの通信の様子を表した説明図である。

【符号の説明】

1 0 サーバシステム、1 2 ウェブサーバ、1 3 記憶部、1 4 データベースサーバ、1 6 データ記憶装置、1 8 ネットワークケーブル、2 0 インターネット、4 0 ユーザコンピュータ、4 2 ディスプレイ。

【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】

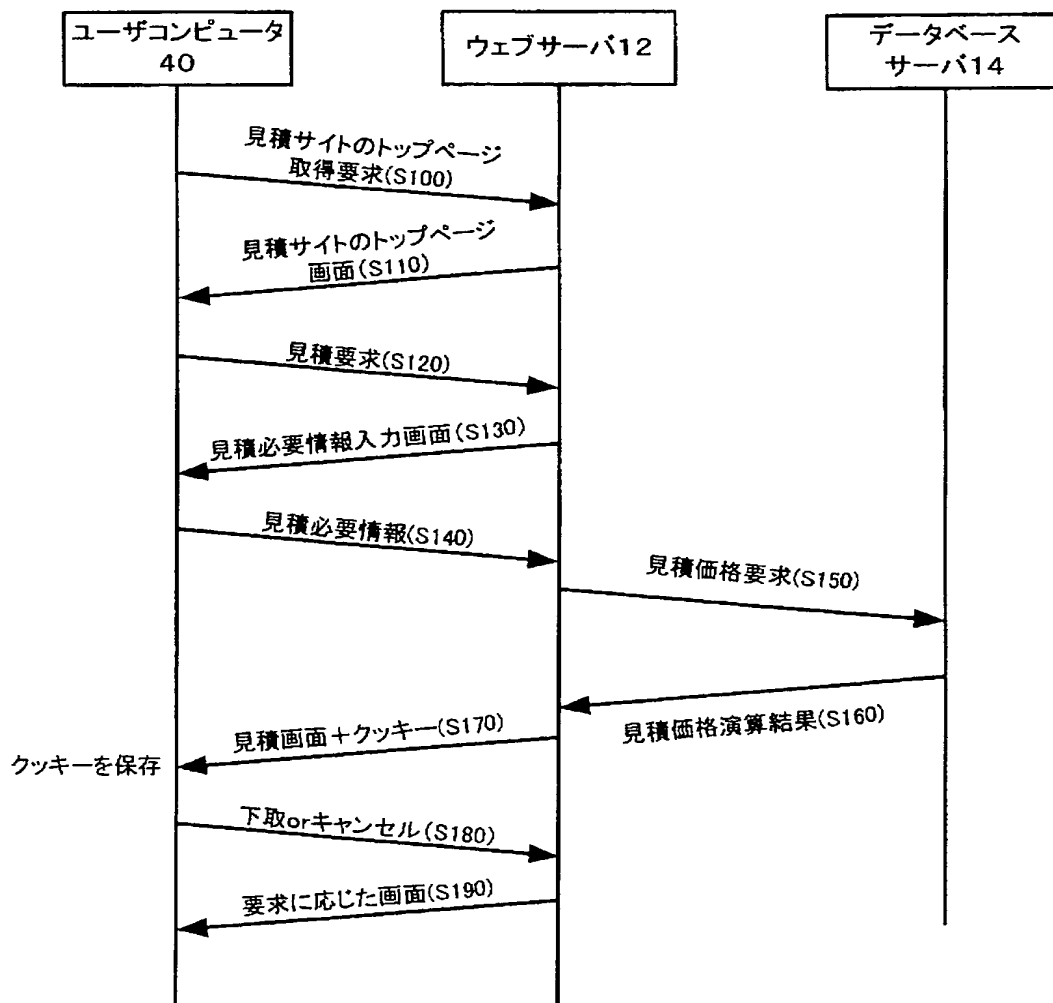
部品	種類	価格
CPU	Pentium166MHz以下	¥〇〇〇〇
	Pentium2 300MHz以下	¥〇〇△△
	Pentium2 450MHz以下	¥△△△△
	・ ・ ・	・ ・ ・
メモリ	なし	¥ 0
	64MB以下	¥□□□
	128MB以下	¥□□△
	・ ・ ・	・ ・ ・
HDD	なし	¥ 0
	10GB以下	¥×××
	40GB以下	¥××△
	・ ・ ・	・ ・ ・

※)Pentiumはインテル社の登録商標

【図 3】

商品名	商品価格
ノートPC/〇〇	¥ 200, 000
ノートPC/××	¥ 160, 000
デスクトップPC/△△	¥ 220, 000
デスクトップPC/◎◎	¥ 200, 000

【図 4】



【図 5】

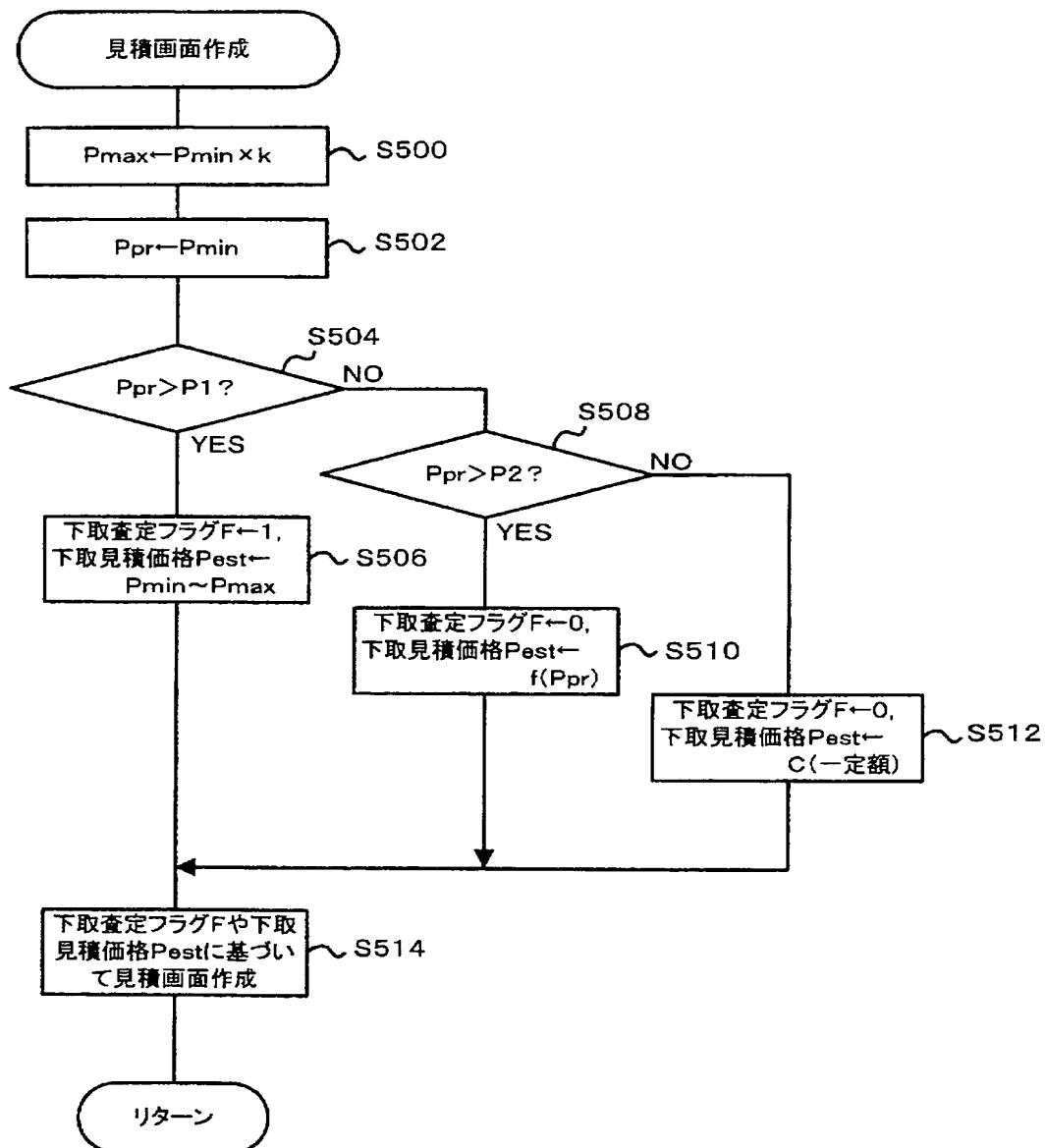
見積必要情報入力画面

パーソナルコンピュータの構成を入力してください。

CPU	<input type="text"/>	▼
メモリ	<input type="text"/>	▼
HDD	<input type="text"/>	▼
CD-ROM	<input type="text"/>	▼
FD	<input type="text"/>	▼
LANカード	<input type="text"/>	▼
マニュアル	<input type="text"/>	▼
梱包箱	<input type="text"/>	▼

OK

【図 6】



【図 7】

仮見積価格 P_{pr}		査定の有無	見積価格 P_{est}	値引額 D
$P_{pr} > P_1$		査定あり	$P_{est} \leftarrow P_{min} \sim P_{max}$	$D \leftarrow P_{min}$
$P_1 \geq P_{pr}$	$P_1 \geq P_{pr} > P_2$	査定なし	$P_{est} \leftarrow f(P_{pr})$	$D \leftarrow P_{est} (= f(P_{pr}))$
	$P_2 \geq P_{pr}$		$P_{est} \leftarrow C$	$D \leftarrow P_{est} (= C)$

【図 8】

(a)

見積画面

今回のパーソナルコンピュータの見積価格は以下のとおりです。

下取見積価格 最低値 ¥ 30,000 ~ 最高値 ¥ 40,000

※注意事項

- ① 下取見積価格は新たな商品の購入を伴う場合の見積価格です。
- ② 最終的な下取価格はシステム側に中古品が到着後査定を行った上で最低値から最高値までの範囲内で決定されます。
- ③ 正常に動作しない中古品は買取・下取の対象外になります。
- ④ 中古品の所有権はシステム側に中古品が到着した時点でシステム側に移転されます。

(b)

見積画面

今回のパーソナルコンピュータの見積価格は以下のとおりです。

下取見積価格 確定値 ¥ 7,500

※注意事項

- ① 下取見積価格は新たな商品の購入を伴う場合の見積価格です。
- ② 最終的な下取価格は確定値のとおりであり査定は行いません。
- ③ ……
- ④ ……

(c)

見積画面

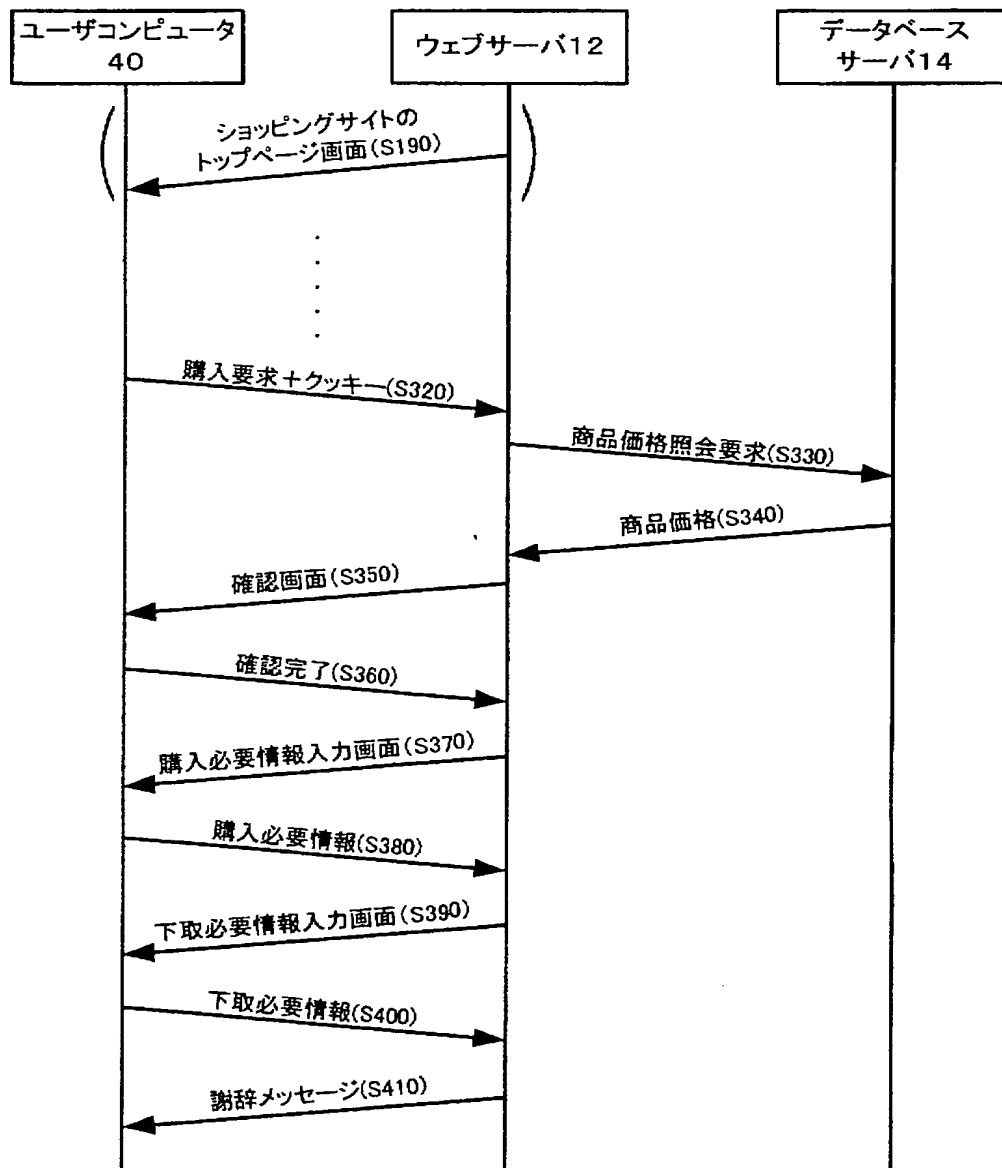
今回のパーソナルコンピュータの見積価格は以下のとおりです。

下取見積価格 確定値 ¥ 5,000

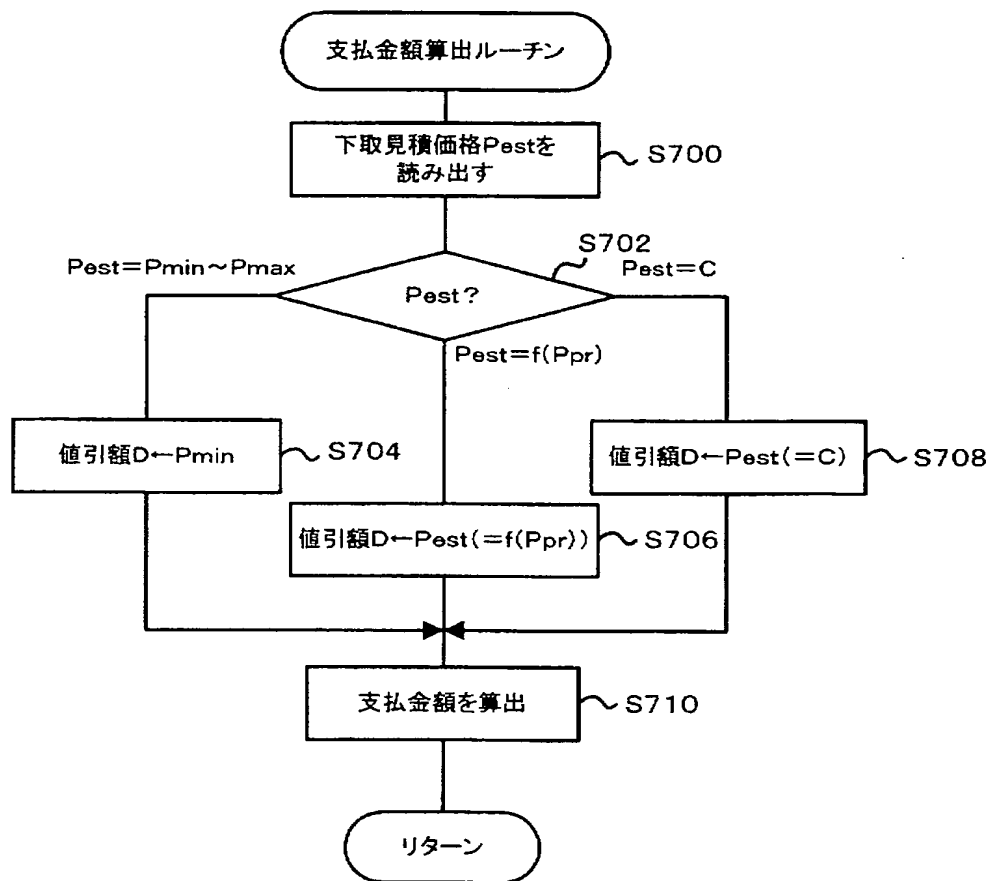
※注意事項

- ① 下取見積価格は新たな商品の購入を伴う場合の見積価格です。
- ② 最終的な下取価格は確定値のとおりであり査定は行いません。
- ③ ……
- ④ ……

【図 9】



【図 10】



【図 1 1】

確認画面	
購入希望の商品名	ノートPC/〇〇
商品価格	¥ 200, 000
下取対象品	パーソナルコンピュータ CPU: × ×、クロック250MHz メモリ: 64MB HDD: 5GB
下取見積価格	最低値 ¥ 30, 000 ~ 最低値 ¥ 40, 000
支払金額	¥ 200, 000 - ¥ 30, 000 = ¥ 170, 000

※注意事項

- ①最終的な下取価格はシステム側に中古品が到着後査定を行った上で最低値から最高値までの範囲内で決定されます。
- ②最終的な下取価格が最低値を上回ったときには最低値を越えた分を返金致します。
- ③正常に動作しない中古品は買取・下取の対象外になります。
- ④中古品の所有権はシステム側に中古品が到着した時点でシステム側に移転されます。

OK キャンセル

【図 12】

購入必要情報入力画面

ユーザの住所	<input type="text"/>
ユーザの氏名	<input type="text"/>
ユーザの電話番号	<input type="text"/>
ユーザのメールアドレス	<input type="text"/>

商品の配送先住所＝ユーザの住所？ ☐はい ☐いいえ

商品の配送先住所	<input type="text"/>
商品の配送先電話番号	<input type="text"/>
商品の配送日時	<input type="text"/>

送信

【図 13】

下取必要情報入力画面

中古品のピックアップ先住所＝ユーザの住所？ ☐はい ☐いいえ

中古品のピックアップ先住所＝商品の配送先住所？ ☐はい ☐いいえ

中古品のピックアップ先住所

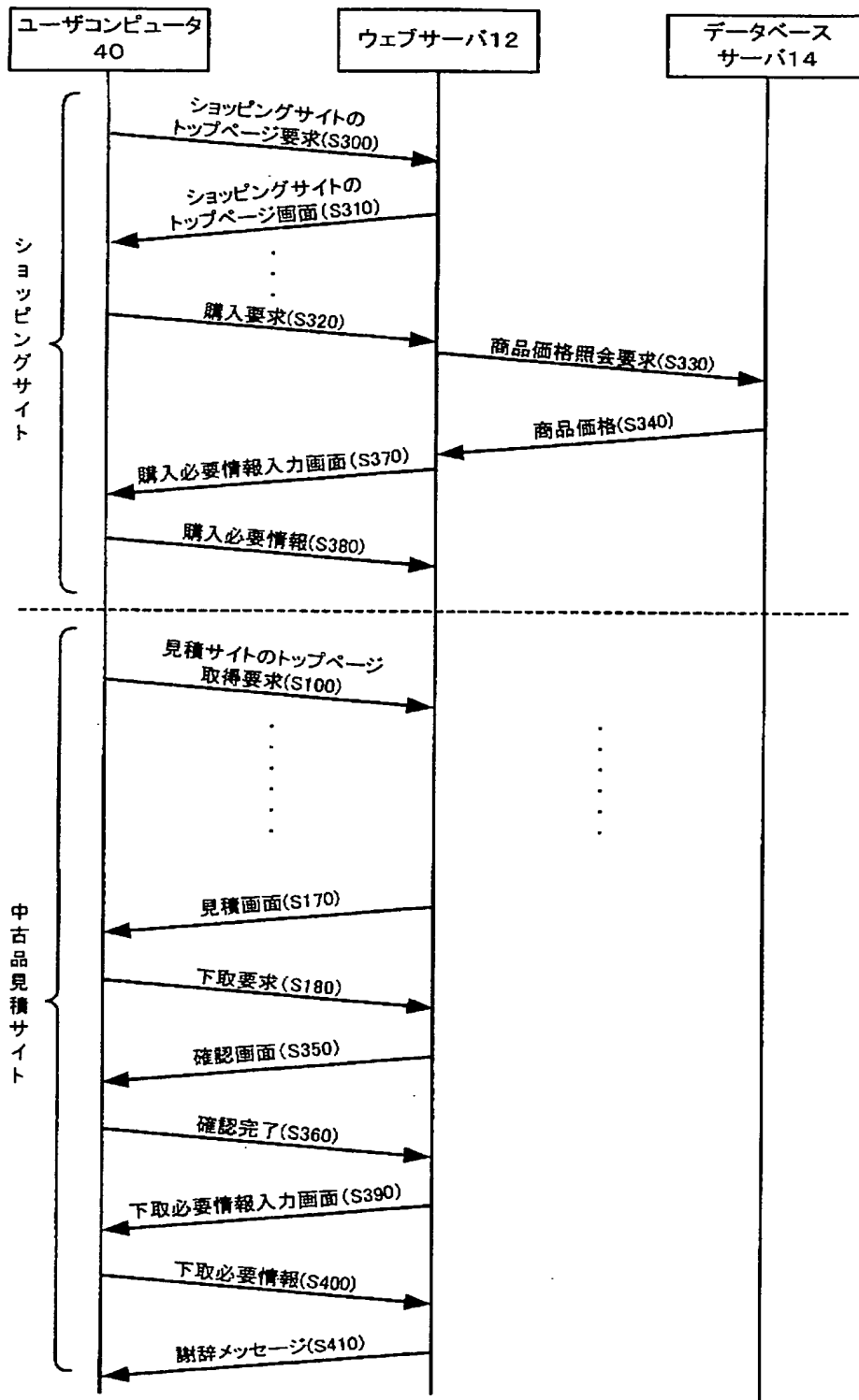
中古品のピックアップ先電話番号

中古品のピックアップ日時

中古品下取金額の送金先

送信

【図 14】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ユーザフレンドリに商品の販売と同時に中古品の下取を行う。

【解決手段】 このサーバシステム 1 0 では、ユーザコンピュータ 4 0 から商品の購入要求を受信したときその商品価格を決定し、また、ユーザコンピュータ 4 0 から中古品の下取要求と中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、その中古品の下取時の見積価格を見積必要情報に基づいて決定する。そして、見積価格に応じて商品価格の値引額を決定し、その値引額を商品価格から差し引いた差額を算出し、その差額を支払金額としてユーザコンピュータ 4 0 へ送信する。このように、商品価格から値引額を自動値引してその差額を支払金額としてユーザに送信するため、ユーザとしては商品の購入価格を支払う手続と中古品の下取価格を受け取る手続を別々に行う場合に比べて手続が簡素化される。つまり、商品の販売と中古品の下取とをユーザフレンドリに行うことができる。

【選択図】 図 1

特 願 2 0 0 2 - 3 1 2 4 6 9

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 2 3 6 9]

1 . 変 更 年 月 日

1 9 9 0 年 8 月 2 0 日

[変 更 理 由]

新 規 登 録

住 所

東 京 都 新 宿 区 西 新 宿 2 丁 目 4 番 1 号

氏 名

セ イ コ ー エ プ ソ ン 株 式 会 社